



中学校 社会科のしおり

2008年

9

月号

社会科の先生方でご覧ください

--	--	--	--	--

帝国書院



表紙写真解説

サナア旧市街とバーバルヤマン

(写真 帝国書院、2008年8月撮影)

イエメンの首都サナアの旧市街と、その手前、バーバルヤマン（イエメン門）を望む。旧市街には、幾本かのミナレット（人々に礼拝を呼びかける尖塔）がひととき高く佇立し、イスラームの都市であることを告げている。もと城壁都市だったこの町には、その入口としてかつて五つの門があったが、バーバルヤマンが現存する唯一の門となっている。1986年、旧市街はユネスコ世界遺産（文化遺産）に登録された。

写真では、門の向こう側に4～6階建てのビルが林立するが、これらは日干しレンガを積み上げただけの泥づくりの家である。地震の少ないサナアでは、このような住宅が400～500年にもわたって使い続けられており、「世界最古の摩天楼都市」などと自負

されている。住宅が高層建築の様式を取るのは、外敵からの防御のために、1階が家畜の飼育部屋、2階が穀物の貯蔵部屋、3階以上が人の居住スペースとして利用されてきた。泥づくりのため町全体が茶色く見えるが、建物の窓枠には防水のために白い漆喰が施され、茶と白の美しいコントラストをつくり出している。

バーバルヤマンをくぐるとすぐにスーク（市場）がある。その建物と建物に挟まれた路地の軒先では、岩塩や香辛料、衣服や靴、装飾品や嗜好品といった品物が所狭しと並べられ、地元の人々の日常生活を支えている。しかし、厳格なイスラーム国であるイエメンでは、男女の別が徹底されているので、スークで女性に出会うことはまれである。もし出会ったとしても、彼女たちは全身に黒装束をまとい、ヒジャーブという覆面を着けている。サナア旧市街は、男たちだけの社交場でもあるのである。

(近畿大学教授 戸井田克己)